

<報道資料>

2010年10月1日
財団法人東方研究会

第20回中村元東方学術賞 桂 紹隆（龍谷大学教授）氏に決定しました。

財団法人東方研究会〈理事長：前田專學〉では1990年より東洋思想・文化の分野において成し遂げられた学術研究ならびに文化活動のすぐれた業績を世に広く顕彰するため、インド大使館と共催で「中村元東方学術賞」授与して参りました。本年6月17日に行われた中村元東方学術賞選考委員会〈選考委員長：前田專學、選考委員：奥田聖應、川崎信定、木村清孝、三枝充恵、高崎直道、田邊和子、田村晃祐、奈良康明、原實委員 計10名〉の選考に基づき、本年度の第20回中村元東方学術賞受賞者を桂 紹隆（かつら しょうりゅう—昭和19年1月9日生 龍谷大学教授、広島大学名誉教授、文学博士）に決定いたしましたので、お知らせいたします。

尚、授賞式は10月11日インド大使館講堂（千代田区九段南2-2-11）において、午後5時より行われる予定です。

本資料に関するお問い合わせ
財団法人東方研究会・東方学院事務局
TEL03 (3251) 4081
〒101-0021 東京都千代田区外神田2-17-2

授賞理由

（1）インド論理学、特に仏教論理学の研究

主としてディグナーガ（ca. 480~530）とダルマキールティ（ca. 600-660）という二人の代表的な仏教論理学者の文献研究とその解釈を行なった。

ディグナーガに関しては、『因明正理門論』の一連の翻訳と詳注を公表し、過去の研究の成果を利用して、より正確な原文理解と解釈を学界に提示した点が評価される。ダルマキールティに関しても数々のすぐれた業績を上げている。特に、「ダルマキールティの真理論」（*Journal of Indian Philosophy*, Vol. 12-3, 昭和59年）は海外の研究者によってしばしば言及され、現代のダルマキールティ研究の主要な成果の一つと見なされている。

また、インド論理学全般の歴史的研究にも取り組んでいる。

その後、一般読者のためにインド論理学を紹介する『インド人の論理学』（中公新書）を公刊し、日本で始めて開かれた「第1回国際議論学学会」（2000年開催）において基調講演を行い、世界各国から集まった議論学者たちにインドにおける討論の伝統を

紹介して、注目を集めた。

(2) ナーガールジュナ研究

ナーガールジュナの論法の根幹をなす「四句分別」のヴェン図による分析を行い、一方でナーガールジュナの主著『中論頌』の英訳に取り組んでいる。

(3) アビダルマ研究

多くの新しい知見を、その論拠となる箇所翻訳とともに提示している。

(4) 大乘經典の翻訳

中央公論社の大乘仏典のシリーズで『法華経』のサンスクリット原典からの翻訳に参加、その後、故梶山雄一博士らと『華嚴経入法界品』のサンスクリット原典からの世界最初の現代語訳を公刊した。

(5) 国際的に高い評価

さらに、国際的にも活躍し、オーストリア科学アカデミーのシュタインケルナー博士のジネーンドラブッディ『複注』のサンスクリット写本を解読し校訂出版するプロジェクトに参加。また、1997年には、自ら主催者となって、世界各国のダルマキールティ研究者を集め、広島国際会議場で「第3回国際ダルマキールティ学会」を開催した。

授賞者略歴

【学歴】

昭和41年 3月 京都大学文学部哲学科仏教学専攻卒業

昭和43年 3月 京都大学大学院文学研究科修士課程仏教学専攻修了

昭和43年 4月 京都大学大学院文学研究科博士課程進学

昭和43年 9月～昭和49年 6月 トロント大学大学院博士課程留学

【職歴及び研究歴】

昭和43年 7月～昭和47年 6月 トロント大学東アジア学科インストラクター

昭和47年 7月～昭和49年 6月 トロント大学サンスクリット・インド学科専任講師

昭和50年 4月～昭和51年 8月 京都産業大学教養部専任講師

昭和51年 9月～昭和53年11月 広島大学文学部専任講師

昭和53年12月～平成元年 3月 広島大学文学部助教授

昭和54年 9月～昭和55年 7月 オックスフォード大学東洋研究所留学

平成元年 4月～平成16年 3月 広島大学文学部教授（退職時に名誉教授）

平成16年 4月～現在 龍谷大学文学部教授

【学位】

昭和49年12月 トロント大学 Ph.D.

昭和62年 3月 京都大学 文学博士

【褒賞】

昭和 52 年 日本印度学仏教学会賞

主要業績

①著書

1. *A Study of Harivarman's Tattvasiddhi*, トロント大学 PhD、昭和 49 年
2. 『インド人の論理学』中央公論社、平成 10 年
3. *How did the Buddhists prove something? — The Nature of Buddhist Logic —*, The Numata Ehan Lecture in Buddhism 1996, カルガリ大学、平成 12 年

②編著書

1. *Dharmakīrti's Thought and Its Impact on Indian and Tibetan Philosophy*, Proceedings of the Third International Dharmakīrti Conference, Hiroshima, November 4-6, 1997, オーストリア科学アカデミー出版局、ウィーン、平成 11 年
2. E. Steinkellner 共編、*The Role of the Example (dāṃśānta) in Classical Indian Logic*, ウィーン大学、平成 16 年

③共訳書

1. 長尾雅人・丹治昭義共訳『法華経 II』中央公論社、昭和 51 年
2. 桂宥子共訳、サダーティッサ著『ブッダの生涯』立風書房、昭和 59 年
3. 梶山雄一・丹治昭義・田村智淳共訳『さとりにへの遍歴（上）・（下）』中央公論社
平成 6 年

以上

<参考>

文化勲章受章者・東京大学名誉教授の中村元（1912～1999 島根県松江市生まれ、哲学者、宗教学者）は世界的なインド哲学・仏教学の権威であり、日本における比較思想の開拓者でした。財団法人東方研究会は中村元によって、東洋思想の研究とその成果の普及を目的とし 1970 年に創設されました。

東方研究会では、中村元の没後、これまでの東方学術賞から中村元東方学術賞と名称を変更し、2000 年より中村元の命日にあたる 10 月 10 日にインド大使館と共催で授賞式を開催しています。※本年は事情により翌 11 日の開催となります。